

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

令和5年度全国学力・学習状況調査【小6】において国語101 算数105以上

3.指標に向けての取組

□読解力向上の取組を継続して行う。しかし、取り組み方法を変更し、活用力を問うような条件付記述式問題に特化し、系統立てた取組を短期的・集中的に行う。具体的に時間を決めて問題を解かせ、専科が解説を行った。

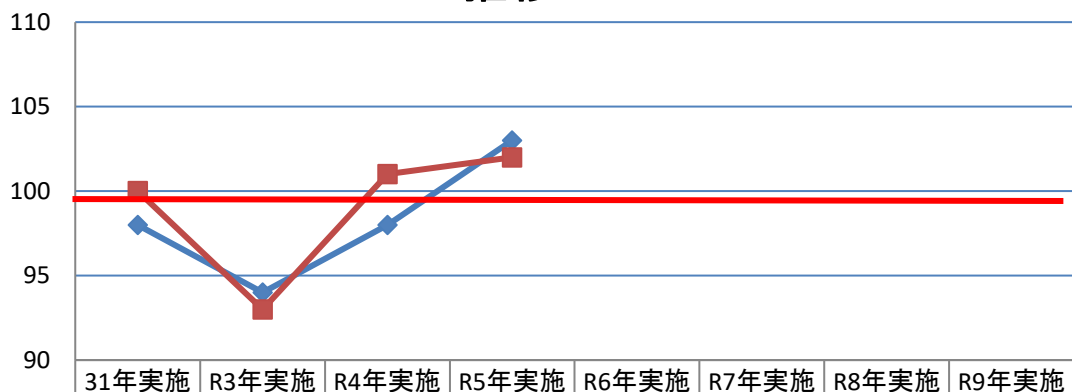
□金曜日の朝の学習時間に全校一斉漢字テストを行う。具体的には、前学年の漢字を隔週で、読みテストと書きテストに分けて行う。誤答の多い児童については、給食準備時間などの隙間時間に、専科が中心となり支援を行った。

□算数科においては、単元テストの結果を踏まえた補充学習や重要単元での複数体制による指導を実施した。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	算数
本校	103	102
嘉麻市	99	98
全国	100	100

推移



◆国語	98	94	98	103				
■算数	100	93	101	102				

5.各学校における分析

- 国語科、算数科ともに全国平均を上回ることができた。
- 国語科では、短期指標(101)より+2ポイント上回ったが、算数科においては、短期指標(105)より-3ポイント下回った。
- 国語科においては、言語事項において同音異義語の漢字(○意外✖以外)や敬語の使い方の誤答が目立った。また、思考を伴う記述問題の正答率が低い結果となった。その要因としては、授業中に思考を伴う学習活動の工夫が不十分であったことが考えられる。
- 算数科においては、「図形」領域、特に記述問題については正答率が低い結果となった。その要因として、操作活動などを行う機会を十分に確保できなかったことが考えられる。

6.各学校における今後の取組

- 毎月1回の授業評価アンケート(児童)、授業チェックリスト(教師)を活用し、授業改善を行う。《継続》
- 自分で目標を決め取り組み、達成感を味わわせるため、「未来への一歩」の取組、漢字検定・算数検定の取組を継続して行う。《継続》
- 国語科においては、読解力向上の取組を継続して行う。本年度も基礎・基本の学力を活用する条件付記述式問題に特化し、系統立てた取組を短期的・集中的に行う。具体的に時間を決めて問題を解かせ、専科が解説を行う。《継続》
- 国語科の言葉に関する学習においては、個に応じた家庭学習を行うために、キュービナ(AIDリル)や10Minutes+α(筑豊教育事務所作成の問題集)等の活用を行う。《継続》
- 算数科においては、誰一人取り残さないようにするために、習熟度別指導など単元構成を工夫する。単元テストの通過率を短いスパンで見とり、授業改善し、基礎・基本の定着を図る。《新規》
- 学力の基盤づくりのため、漢字の学習支援の必要な児童に対し、担当(専科)を決めて、漢字の学習方法を個別に支援する。また、朝の活動では、計算力の向上に向け、計算カードの取組を行う。《新規》

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進できるように、特に次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した学習評価からの授業づくり(指導と評価の一体化)や思考を伴う「書く活動」を核とした授業づくりの推進する。そのために、指導主事を派遣して校内研修で授業観察指導を実施したり、「書く活動ポイント9」や「授業チェックリスト」を活用できるように指導助言や支援を行ったりする。
- ◆嘉麻市学力向上全体構想に設定した「家庭学習の取組」を推進する。そのために、AIDリルを活用した個に応じた家庭学習課題の推進を図る。
また、個に応じた学習課題の提示を進める各学校の取組を交流する場を設定する。
- ◆学力向上検証委員会を開催し、単元テスト評価後の個に応じた習熟度別指導を取り入れた指導方法の工夫を推進する。そのために、習熟度別指導の単元づくりや個に応じた補充プリントの活用の仕方、ICTの利活用について指導する。